

令和7年度 北海道中学校体育大会 水泳大会における熱中症防止対策 及び競技進行が困難な場合における代表選手・チームの選出方法について

北海道中学校体育連盟事務局

【全競技に関わる熱中症防止対策】

- ・各競技における基本的な熱中症防止対策については、「北海道中学校体育大会における熱中症防止対策」（当連盟HPの「規約・お願い・連絡事項」のページに掲載）に基づき、大会運営を行う。
- ・会場の暑さ指数計において、暑さ指数（WBGT）が 31℃（※気温と同じ単位であるが、気温だけではなく、気温・湿度・日射・輻射を総合した指標）に近づいたり、31℃を超えたりした場合には、会場の換気や観戦者の入場制限（屋内競技のみ）、大会の中断、競技日程の変更などの措置を検討する。
- ・前日の 17 時に気象庁より発表される「熱中症特別警戒アラート」（※「熱中症警戒アラート」とは異なる）が発令された場合には、その日の大会の中止を検討する。
- ・会期中に試合やレース等の全日程を終了することができなかった場合には、各競技の基準に基づき、全国中学校体育大会の北海道代表選手及びチームを選定する。

【水泳大会に関わる熱中症防止対策】

○ 基本的な対策

- ・通告・場内外アナウンス・表示による注意喚起を行う。（熱中症予防、水分補給等）
- ・タイムテーブルと競技会運営を工夫する。（事前に発表している競技順序及びタイムテーブルを見直す。また予選と決勝を行う予定ならば、タイム決勝として対応する）
- ・1 時間に 1 回の WBGT 測定を行う。
- ・WBGT が 31℃以上となった場合は、大会役員が会場内の全ての人が熱中症対策を講じているか確認し、徹底できていない場合には競技会を一時中断し対応する。サブプールなどを利用し、熱中症対策を講じる。またそれ以降の競技運営方法や選手控え場所等の見直しを行う。

※水泳競技においては水中の競技であり、夏場であっても屋内プールでは室温 29℃、水温 28℃を維持されているため、競技を進行する上で熱中症対策に十分な配慮をすれば大会は継続できることから、選手・引率者、並びに大会役員・競技役員の安全の確保を最優先し、競技運営方法を最低限の内容に変更し行うことを原則とする。

● 競技が進行できない場合の代表チームの選出方法

- ・大会自体が中止となった際には、（公財）日本水泳連盟及び（公財）日本中学校体育連盟と協議の上、全国中学校水泳競技大会出場者救済措置を講じることとする。